

参議院補助金等の臨時特例等に関する法律案特別委員会会議録第十八号

參議院

を耕耘をいたしまして、そこで貝の糞
息地域を耕耘することによつて微生物
の発生を増加して行く。それで増殖を
助けるということは農地の場合と同じ
原理でありますが、そういうような方
策をとりましてやり出しますとか、或
いは客土、農地と同じでありますが、
はかから適切な土を持つて来て客土を
いたしますとかというような措置を講
じますとか、或いは更に進みますと、
これは貝類ではありません。主として
藻類に関係いたしますが、或いは投石

にする。或いは魚礁を作りまして魚を住みやすいようにする。そういうことを水産の増殖施設として別途予算措置を講じまして、これは府県なり、各県の組合に予算を交付いたすのであります。これは幸いにいたしまして、本年度二十九年度は二十八年度より相当金額が充てられておりましたので、その方面のことは重点としてやつて行かなければならないと思つてあります。で一般的に貝類といたしまして多少の移動はいたしますが、やはり適水適地等があるわけがございますので、そう大してしよつちゆう適地が移動するといふものでもないようでありまして、やはり一定の地域、一定の範囲に亘つて貝類が棲息しておることゝが一般的に言われておることでありまして、その点を指定して措置を講ずるといふことによつて今運用をしておるといふ、こういうようなわけでありまして。

○上林忠次君 少し細かい話になつて来ますが、貝類を植え付けるだけじやなしに、もつと根本的に防波堤を、或いは防波堤という大きなものでなくとも、沈石をする、そうして海蝕を避けるとか、淡水が入る所はそういうような施設をして、入る淡水をよそへ流すとか、或いは貝の増殖のために必要な貝の餌というものがあれば、これに對しては何か海藻の或る種類とコンネクトする、そうして貝の増殖には、どうしてもその養分になる動物の繁殖に必要な海藻と共に増殖の計画をして行こうということも必要じやないかと思つてありますが、そういうような点までの研究はないのですか。「はまぐり」なら「はまぐり」と青「の

り」がいいとか、或いは「ひじき」を加えたほうがいいとか、海藻とてよく一連の關係を持たして貝の繁殖を促して行く。ただ水面に貝を播くだけじやない、もつとたい施設があるのじやないか。種子を播くというだけじやないに、先ほどお話がありましたが、その環境をよくする、そこまで考へて行かないと、いい加減な補助金になつても困ると思つて、有効な補助金なら又うんと増してもらわなければならぬ。日本全体から考へても、北のほうは「はまぐり」を持つて行くが、南のほうは「はまぐり」より「あさり」のほうが特に繁殖に適するとか、いろいろな地の違いもあるのじやないか。ただ漠然と貝の種子を播いていくというだけじや、余りに現代の技術としては貧弱じやないかと思つて、それが、大分細かい話になりますが、

か、大分細かい話になりますが、かに単に貝を播くだけということでは、いゝ／＼不十分であることはお説の通りであります。先ほども申し上げました通り、耕耘であるとか、客土によつてその發生の環境を十分助けて行くといふことによつて、一方増殖の施設をいたしておるのではありませんか、そのほうはその補助金として出て行くわけでありまして、それから保護水面管理の問題は、只今私の申し上げました、耕耘、客土等の予算の施設の問題と、これは恐らく相当関連を持つて行かなければならぬのじやないかと思つて、その点は御指摘の通りであると思つて、そこで学問的なむずかしい問題につきましては、私必要があれば十分正確な検討をいたしましてお答えいたしますが、確かにこれは貝類なり、或いは藻

類なり、魚類なりといふものの、個々の観点からの措置じやなくして、総合的に考へるといふような措置によりまして、現在最も問題とされております浅海の増殖の問題を総合的に考へて、いやくも補助金を出す以上は、無駄に使われるようなことのないように、正確に貝類の増殖ができ、その他藻類、魚類等の増殖に資するといふような措置を講じて行かなければならぬと思つてあります。これはやはり補助金の使用の方法の問題と、保護水面の管理の指定の問題と、相互関連して参分私ども注意をいたして参りたい、こゝういふふうに考へております。

○上林忠次君 貝類が主な問題になつておるらしいのですけれども、藻類はこの補助金では頭に入れないらつしやらなかつたのですか、藻類の増殖……。

○政府委員(清井正君) 保護水面の管理の問題につきましては差当りは考へていないのであります。というのは、総合的には考へなければならぬことは無論でありますけれども、先般御指摘のありました通り、予算等の關係もありましたので、取りあへずは比較的早期に効果を上げ得るような貝類に重点をおいたということになつておるのであります。行く／＼は予算の増額を見ることが出来れば、当然そういうふうにも向けて行かなければならぬ。只今は海藻につきましては、先ほど申し上げました投石であるとか、或いは岩石を爆破する問題或いは岩石の表面を擦磨いたしまして、藻類を着きやすくするといふような措置を講じ、海藻類の發生を容易ならしめると

いうことを、別途補助金の処置によつて考へて参りたいのであります。

○上林忠次君 千葉の海岸あたりに参りますと、水草が大きな水産資源になつておりまして、これは又輸出の元にもなつておるといふことを聞いております。ところが最近水草を取り過ぎて、先ほども申しましたように、相当畑が荒れており、何とか肥料でもやれるなら、そこまで行かないといかんのじやないかといふような、極端な話まで私は聞いたのでございまして、けれども、貝類と共に藻類のことも今考へなさいけれども、これは將來の問題でありますけれども、これも十分考へてもらいたいと思つてあります。まあそんなところで次にお譲ります。

○委員長(松永義雄君) ちよつと速記を止めて下さい。

〔速記中止〕

○委員長(松永義雄君) 速記を始めて下さい。

本日はこれを以て散会いたします。

午後二時七分散会